

今回も同様に少数のグループに別れ、講師の先生により IVUS に関する基礎的なことからの講義を実際の画像を中心にを見せて行っていただいた。限られた時間しかなくすべての画像を見ることができなかつたのが残念であるが、今まで実際の臨床の場で経験しながら独学で学んできただけに、それが正しかったのかそうでないのか、漠然と見ていただけで見落としはなかつたか、等、自分なりにある程度は振り返ることができた内容であったように思われる。

当院では、急性期の IVUS も行っておらず、特に実際の現場でできていない内容はあまり見る機会がなく、実際の動画で供覧していただいたのは勉強になったと思われる。当院での実際の臨床の場での IVUS の使用方法は、やはり保険請求がとりにくい問題もあり全例に使用できるわけでもなく、限られた症例にしか使われておらず、ステント留置の際の径、長さ、ステントの広がり、malappositionの有無、プラークの性状、石灰化・解離・血腫等の有無の確認が主目的となっているが、他施設ではそれ以上目的での使用もされており、当院でももう少し診断のツールとして、冠動脈治療を多角的にとらえる手段の一つとして、また、PCI を行っていくうえでの治療におけるツールとしても、もう少し積極的に施行していこうと思うようになりました。

個人的には今までの振り返りとしても、まとまった講義が聴けて大変勉強になったと思われず。